

症例 1



循環器診療 症例紹介

僧帽弁閉鎖不全症による心原生肺水腫 チワワ /10 歳 未去勢オス

主訴

半年前から咳があった。元気食欲が低下し、夕方から呼吸数が早い。

検査

レントゲン検査にて、肺水腫を疑う所見ありエコー検査にて、僧帽弁閉鎖不全症と重度の心拡大を認めた。

診断：僧帽弁閉鎖不全症による心原生肺水腫

治療 手術

強心剤と利尿剤を投与し ICU で管理。

投薬後数時間で呼吸状態は落ち着き、活動性と食欲の改善を認め 2 日後に退院。

術後

退院後も毎月検診で心拡大の早期発見と内服薬の調整を行なっております。以来、肺水腫の再発はなく内服薬でのコントロールができております。

心原生肺水腫は、

主に犬では僧帽弁閉鎖不全症・猫では肥大型心筋症が原因で発症する呼吸器疾患です。

発見や治療が遅れてしまうと、命に関わる重大な緊急疾患です。

「呼吸が速いかも」「最近疲れやすい」「咳をするようになった」などの症状には気をつけましょう。

聴診や身体検査だけでは、見逃されてしまう可能性があるため健康診断で心臓エコー検査や胸部レントゲン検査をお勧めします。